

■レディスプレリュード（JpnⅡ）アラカルト（過去 20 回の分析）

※第 1 回（平成 16 年）から第 7 回（平成 22 年）までは「TCK ディスタフ」の名称で実施

※第 13 回（平成 28 年）は 2 頭が 2 着同着

※記録は令和 6 年 9 月 17 日時点

■ 1～2 番人気馬は堅実だが 3 番人気馬はやや不振

単勝 1 番人気馬は 8 勝、2 着 6 回、3 着 2 回で、3 着内率が 80.0%、単勝 2 番人気馬は 7 勝、2 着 3 回、3 着 2 回で、3 着内率が 60.0%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 3 回、3 着 1 回で、3 着内率が 30.0%となっている。単勝 1～2 番人気馬に比べると、単勝 3 番人気馬は好走率が低い。

■ 半数以上の回が 1～3 番人気馬のワンツーフイニッシュ

過去 20 回のうち 17 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 10 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 2 回ある。

■ パフィオペディラムとミラクルレジェンドが“連覇”を達成

レディスプレリュードにおいて複数回の優勝経験があるのは、第 4 回（平成 19 年）と第 5 回（平成 20 年）を制したパフィオペディラム、第 8 回（平成 23 年）と第 9 回（平成 24 年）を制したミラクルレジェンドの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■ 優勝馬の 8 割が 4～5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 2 勝、4 歳が 7 勝、5 歳が 9 勝、6 歳が 1 勝、7 歳が 1 勝となっている。4～5 歳勢が中心と言えるだろう。

■外国産馬は1勝

外国産馬の優勝例は、第7回（平成22年）のザッハーメインによる1回だけである。

■指定交流競走となってからはJRA所属馬が圧倒的に優勢

指定交流競走となった第8回（平成23年）以降の計13回に限ると、地方所属馬は0勝、2着2回、3着2回、JRA所属馬は13勝、2着12回、3着10回となっている。3着以内馬延べ39頭のうち89.7%がJRA所属馬だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「3」

騎手別の勝利数を見ると、岩田康誠騎手が3勝で単独トップ。左海誠二騎手が2勝で単独2位となっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「2」

調教師別の勝利数を見ると、岡林光浩調教師、角居勝彦調教師、橋口慎介調教師、藤原英昭調教師、山浦武調教師が2勝でトップタイとなっている。

■優勝例のない枠番は4枠だけ

枠番別の勝利数を見ると、3枠（5勝）が単独トップ。7枠（4勝）が単独2位、6枠と8枠（各3勝）が3位タイとなっている。なお、未勝利の枠番は4枠のみである。また、馬番別の勝利数を見ると、5番（3勝）が単独トップ。3番、8番、9番、12番、15番（各2勝）が2位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は11番、14番、16番だ。

<伊吹雅也>